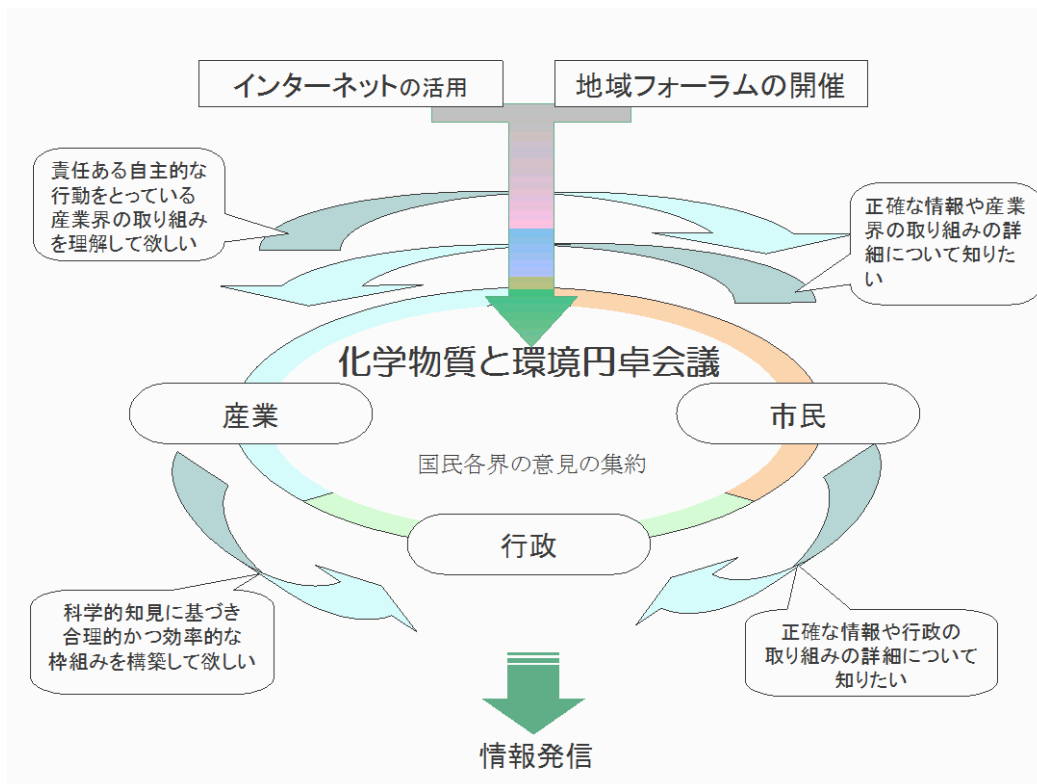


化学物質と環境円卓会議



“情報の共有と相互理解のために”

～化学物質の環境リスクコミュニケーション～

「化学物質と環境円卓会議」とは

1. 背景・趣旨

化学物質は、私たちの生活を豊かにし、また生活の質の維持向上に欠かせないものとなっている一方で、日常生活の様々な場面、製造から廃棄に至る事業活動の各段階において、環境を経由して人の健康や生態系に悪影響を及ぼすおそれがあり、こうした環境リスクに対する国民の不安も大きなものとなっています。

このため、平成13年7月の「21世紀『環の国』づくり会議」（内閣総理大臣主宰）報告書では、以下の提言がなされています。

「21世紀『環の国』づくり会議」報告書(抄)

化学物質による環境汚染に対する国民の不安を解消するためには、行政、産業、市民が情報を共有し、共通認識を持って合理的な行動が取れるような社会的枠組みを作ることが必要です。このため、行政、産業、国民の代表による協議の場を設けるなどにより、化学物質による環境リスク低減のための国民的参加による取り組みを促進することが望まれます。

「化学物質と環境円卓会議」は、上記の提言を踏まえ、化学物質の環境リスクについて、国民的参加による取組を促進することを目的として、市民、産業、行政の代表による化学物質の環境リスクに関する情報の共有及び相互理解を促進する場として設置するものです。

2. 会議の概要

(1) 化学物質と環境円卓会議は、

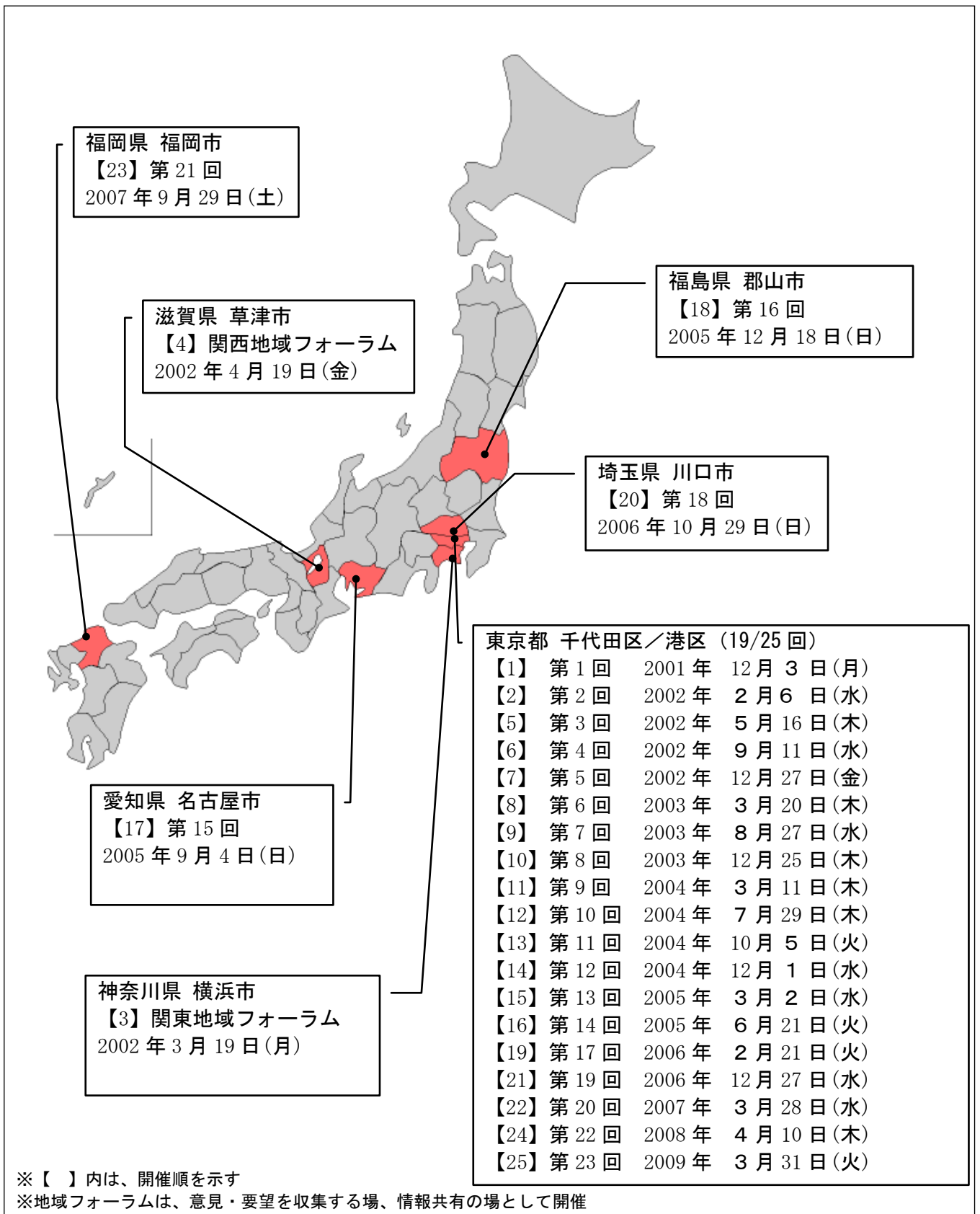
インターネットの活用や地域フォーラムの開催により、国民各界の意見・要望を集約し、

1. これらの意見・要望を踏まえた対話を通じて、環境リスク低減に関する情報の共有と相互理解を深め、
2. 会議での議論やそこで得られた共通認識を市民・産業・行政に発信します。

(2) 会議の構成メンバー

	氏名	所属
市民	有田 芳子	主婦連合会
	大沢 年一	日本生活協同組合連合会
	後藤 敏彦	環境監査研究会、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク、社会的責任投資フォーラム
	崎田 裕子	ジャーナリスト、環境カウンセラー、NPO法人新宿環境活動ネット
	角田 季美枝	バルディーズ研究会
	中下 裕子	ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議
	村田 幸雄	財団法人世界自然保護基金ジャパン
産業	岩本 公宏	社団法人日本化学工業協会
	瀬田 重敏	社団法人日本化学工業協会
	越智 仁	株式会社三菱ケミカルホールディングス、株式会社三菱化学
	中谷 吉隆	日本石鹼洗剤工業会、花王株式会社
	川口 清二	電機・電子4団体（社団法人日本電機工業会、社団法人電子情報技術産業協会、情報通信ネットワーク産業協会、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）、株式会社日立製作所
	大場 昇	社団法人日本自動車工業会、日産自動車株式会社
大野 郁宏	日本チェーンストア協会、株式会社西友	
学識 経験者	北野 大	明治大学理工学部応用化学科専任
	原科 幸彦	東京工業大学大学院総合理工学研究科
	安井 至	独立行政法人製品評価技術基盤機構
行政	山本 佳史	愛知県
	岸田 修一	厚生労働省
	小栗 邦夫	農林水産省
	後藤 芳一	経済産業省
	原 徳壽	環境省

「化学物質と環境円卓会議」の開催状況



化学物質に関するリスクコミュニケーション
に係る環境省の取組について

(参考)

化学物質に関するリスクコミュニケーションとは

環境リスクなどの化学物質に関する正確な情報を市民、産業、行政等のすべての者が共有しつつ、相互に意思疎通を図ること。

環境省の取組

情報の整備

環境リスクなどの化学物質についての分かりやすい情報の作成、提供

- ・リスクコミュニケーションホームページの設置
- ・PRTRデータを読み解くための市民ガイドブックの作成
- ・エコ調査ガイドブックの作成
- ・化学物質ファクトシートの作成
- ・かんたん化学物質ガイドの作成
- ・学習関連資料の普及

等

情報提供

場の提供

市民、産業、行政等による環境リスクなどの化学物質に関する情報の共有及び相互理解の促進

- ・市民、産業、行政等からなる「化学物質と環境円卓会議」の開設・運営(これまで23回開催)

情報提供

参加

市民

整備された情報の解説

客観的かつ中立的な知見の提供

対話の推進

身近な化学物質に関する疑問に対して対応する人材の育成やリスクコミュニケーションの手法の開発等

- ・かんたん化学物質ガイドeラーニング版(音声・動画付きでパソコン上で学べるもの)の作成
- ・化学物質アドバイザー育成・派遣事業